「配色を考えよう」

ここでは、配色と、構図の計画に沿った配置のバランスをどう考えると良いか、作例を見ながら方法を研究してみましょう。

緑は、黄・赤を引き立てるために控えめな色合いに

主役の黄の明るい部分は、原色の強い黄で描く

黄の引き立て役の赤も、原色の赤で強く！

構図としては、黄の樹木を主役に、となりあう赤の樹木を引き立て役とし、その他がわき役に回る配置です。
この場合には、主役・引き立て役にスポットライトが当たるよう彩度の高い下地色を入れ、わき役は比較的彩度の低い色を置く、といった配色を考えると、バランスのとれた見栄えの良い画面にまとまります。
「緑の色合いをどう混色するか」　ここが重要なポイントになりますが、黄・青・赤（又は赤茶）の混色であれば、青の量を控え、黄を多く、カゲ色になるに従って赤の量を増やせば、作例のような黄緑～抹茶色のカゲに移行する緑のグラデーションが得られるでしょう。必要なコントラストが得られない場合には、黒（又は他の類似色）を加えると必要な暗さが出せます。黄の量が多い緑は、黄との相性がとても良く、まとまりが出しやすくなります。赤にも微量の黄を加えると、全体の中に上手く溶け込んだ赤になります。
こうした色の対比を生かすには、余計な固有色の説明をなるべく省くのがコツです。細かな固有色の説明は、こだわり過ぎると目障りになり、全体の調和を壊してしまうので気を付けましょう。